



とびっくす No.91

(本誌はホームページでもご覧いただけます。http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/)

令和元年度秋季ヤマトシジミ資源量調査結果

～ 資源個数・重量ともに今年春季からV字回復！～

水産技術センター内水面浅海部では、毎年6月(春季)と10月(秋季)に宍道湖に生息するヤマトシジミ(殻長2mm以上)の資源量を推定するための調査を行っています。今年度の春季調査は10月16日・21日に実施したので結果を報告します。

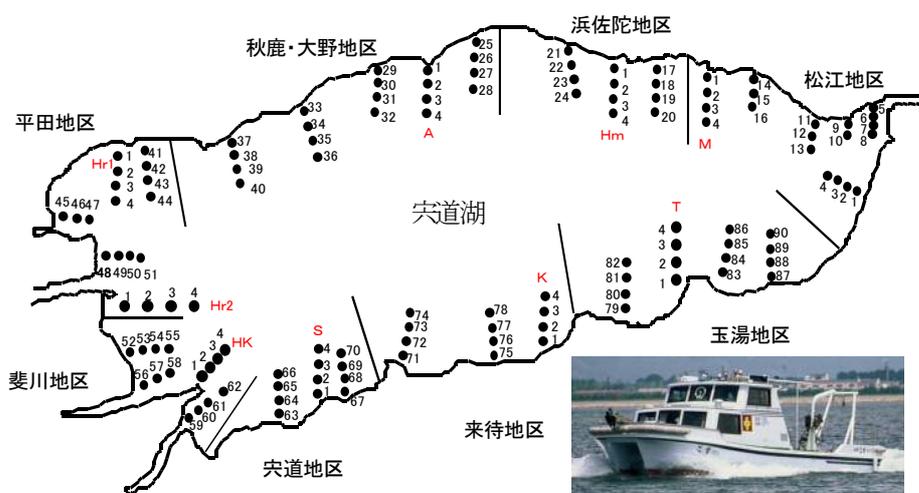


図1 調査地点

調査方法

図1に示す調査定点(126ヶ所)において調査船「ごず」を使用し、スミス・マッキンタイヤ採泥器で各定点2回(面積0.1 m²)、湖底の砂泥と一緒にヤマトシジミを採集しました。採集した砂泥サンプルは、フルイでサイズ別に選別し、生息密度と水深別の漁場面積から宍道湖全体の資源量を算出しました。

表1 ヤマトシジミの資源量

サイズ		重量 (トン)	個体数 (億個)
未成貝	殻長 12 mm 未満	14,794	1,011
成貝	殻長 12 mm 以上 17 mm 未満	26,674	332
	殻長 17 mm 以上 (漁獲対象)	22,287	97
	成貝合計	48,961	429
全資源量		63,755	1,440

調査結果および考察

令和元年秋季のヤマトシジミの資源量(表1)は約6万4千トン、1,440億個が生息していると推定されました(令和元年春季は約1万9千トン、965億個)。令和元年春季調査と比べ重量で約4万5千トン、個体数で475億個増加しています。

内訳をみると、漁獲対象である殻長17mm以上は、約2万2千トン、97億個でした。これは、平成14年に詳細な資源量調査を開始して以降、秋季資源量の過去17年平均値(約1万7千トン)の約1.3倍、今年春季(約8千トン)の約2.9倍でした。殻長12mm以上の成貝は、約4万9千トン、429億個で、今年春季(約1万3千トン、94億個)の重量で3.7倍、個体数で4.6倍と急増しました。殻長

12mm 未満の未成貝は約 1 万 5 千トン、1,011 億個で、今年春季から重量で約 3 倍、個体数でもわずかに増加しています。

昨年秋季の調査では、高水温や餌不足、水草類の影響等により、資源量が大きく減少し、今年春季の調査でも、個体数は昨年生まれの小型稚貝(殻長 1~5mm)の加入により増加したものの、重量では半減しました。しかしながら、今回の調査では、春季に確認された小型稚貝や、漁獲サイズに達していない成貝が、春季以降に宍道湖がシジミの成育に最も好適な環境(比較的塩分が高く、餌料条件が良好、水草の影響が少なかったこと等)に恵まれたことにより、過去最高レベルの成長とともに生き残りが大きく向上、その結果、資源量は大幅な増加に転じました(図 2、3)。

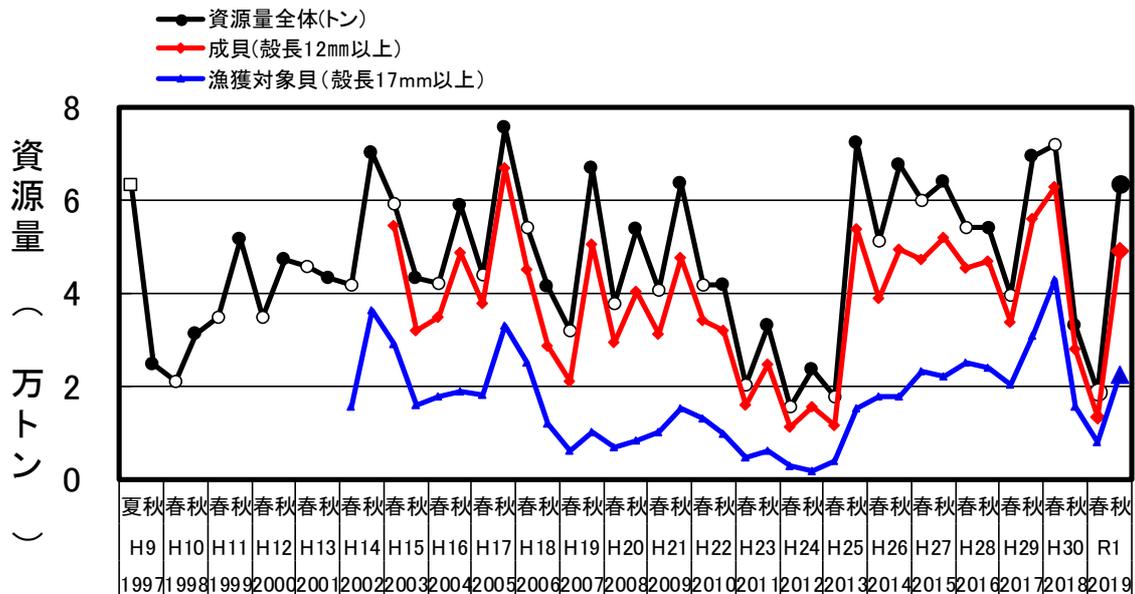


図 2 宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移

今後の見通し

今季は、平成 25 年と同様、資源量が急激に増加に転じ、今年春季の過去最低レベルから、比較的高水準であった平成 26~28 年と同等の水準まで回復しました。また漁獲対象資源が増加しただけでなく、漁獲対象となる直前のサイズ(殻長 12~16mm)も多かったことから、このまま順調に推移すれば、来春に向けても安定した漁獲が期待できそうです。

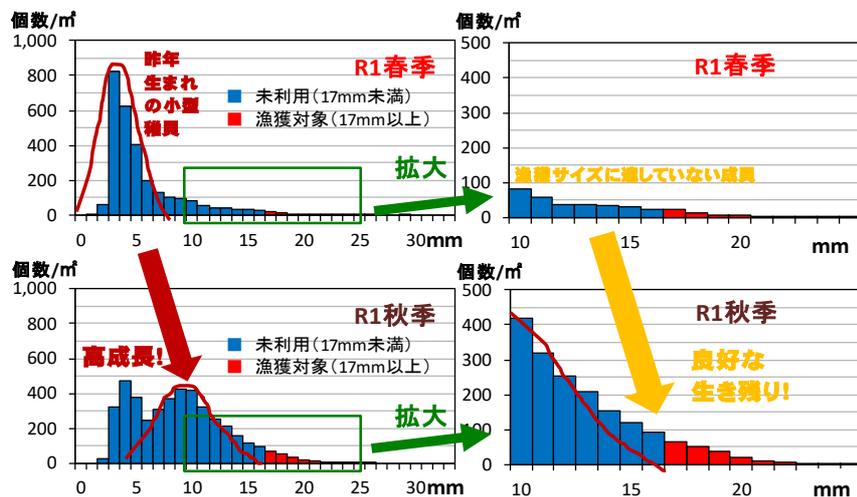


図 3 宍道湖全体のヤマトシジミの殻長組成 (R1年春季~秋季、全調査地点の平均値)

島根県水産技術センター

島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp